

令和5年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2023年6月10日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員会からのご意見
I 教育理念・目的・ 育人材像	1-1-1 理念・目的・育人材像は、定められているか	4	建学の理念や教育目的・目標、育人材像は、学則や学生便覧に明記している。現在5学科を設置しており、そのうち3学科が職業実践専門課程の認定を受けている。	3つのポリシー（アドミッション、カリキュラム、ディプロマ）もホームページや学生便覧に記載しており、今後も学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会、各種の情報公開を通して、本校の建学の理念や教育目的に沿って育人材像を明確にしていくとともに、本校職員も入職時期がそれぞれ異なることから、職業人教育の理解と重要性の浸透を図りたい。	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍にあってもオンラインの活用により、学びを止めることなくすすめられたことは学生に安心感を与えることになったと思います。</li> <li>また、情報活用能力（処理能力）はこれからの時代必須であると思いますが、ICTは目的ではなく、手段であるという点を踏まえ、なぜ、その選択をするのかという理由が明確であれば、従来のか実の教科書や電子教科書の活用は学生が決めるという考え方も大切ではないかと思います。</li> <li>・ICTとして電子教科書を導入した看護学科においては、学生の反応を確認し、1年後検証していただければと思います。</li> <li>・海外研修はコロナ禍でオンラインであるが、世界が広がる経験のため、オンラインの充実を図ってもらいたいと思います。</li> </ul>
	1-1-2 育人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	3	各学科においては「3つのポリシー」に基づき、教育目的・教育目標・教育方針を明確に立て、専門職業教育とキャリア教育の実践による職業人教育を行っている。また、教育の質向上を図ることを目的に、業界人材ニーズに適合するための取り組みとして、就職フェアや学校関係者評価委員会と教育課程編成委員会等外部の意見を取り入れている。	業界の人材ニーズに適合するために教育をおこなっているが、まだ十分にニーズに適合しているとまでは言い難い。新型コロナウイルスをはじめ、感染症拡大時等の実習のあり方や配慮事項など、実習施設など業界からの意見や情報収集を行い、最善の教育課程の編成を行っていきたい。	3	
	1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	3	教育課程編成委員会で意見交換を行い、カリキュラムの改善や学生教育指導における教科教授法などに活かし、地域社会に貢献する取り組みができている。また本校の特色では、導入教育の一環として入学前教育のプレレッジの実施、更に海外研修や卒業課題研究などの教育プログラムを実践している。	教育理念の【国際教育】においては、海外研修プログラムがコロナ禍で渡航して行うことができず、現地とオンライン繋ぐハイブリッド型で実施しているため、渡航しての対面型と同等の教育効果が得られるように今後も検討を重ねていく。また入学前教育もコロナ禍であることや入試の時期によりプログラムの計画が難しいため、次年度の入学前教育については入試種別で対応するなど工夫をしていきたい。	3	
	1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	3	令和4年度より7期5か年計画がスタートし、ICT教育としてデバイスを活用した電子教科書の導入の準備に入り、看護学科での導入を決め、学生ひとり一人にデバイス保持を推奨し、オンライン授業の有効活用している。	看護学科が新カリキュラムでスタートしたが、それに合わせてICT教育としての電子教科書の導入を次年度から行う。効果的な教育をできるよう学科で検討し、学校全体として取り入れる際にはスムーズな導入ができるようにしたい。	3	
II 学校運営	2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4	基本方針である「7つの視点」と本校としての基本数字である「5つの数字」に対して教職員一人ひとりが目的意識を持ち、目標達成できるように努めている。5つの数字とは、①入学者数②退学者率③就職内定率④学費未納者数⑤国家資格合格率である。今年度の重点課題は①入学者数⑤国家試験合格率である。	基本方針の「7つの視点」と基本数字の「5つの数字」を職員に周知し、認知して実行できていると思うが、教職員の理解度にも差があることや、数字目標も修正が出てくるので、4半期ごとに振り返りをしながら軌道修正を行い、基本数字達成に向けて教職員一同に周知していく。	4	特になし
	2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	4	7期5か年計画の1年目である。内容としては、予算計画(5年間)、運営・実行方針(学校全体、広報、教育、就職、リスクマネジメント、コンプライアンス、働き方改革等)であり、それを定量目標と定性目標で明確にしている。	事業計画を円滑に進めて行くために、4半期ごとに振り返りをし、問題点の抽出とその解決策を図っている。また働き方改革や研修計画があり、人材育成と環境整備を実施し、組織のレベルを上げていきたい。	3	
	2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4	法令に則り、理事会、評議員会が開催され、法人の運営状況を確認、検証している。その結果を議事録に適切に残している。法人各校の運営状況を確認し、その状況を会議で共有し、各校の運営に活かしている。	特になし	4	
	2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	4	本学園の会議では各校の管理・運営状況を確認し、情報を共有することであらゆるリスクに関して、迅速な対応ができるようになっている。また、適切な運営ができているかどうか学内の管理運営会議や学科長会議等で確認、検証し、全体会議や教務会議、事務局会議、各種委員会を通じて、教職員へ報告・連絡、情報の共有を図っている。	組織を運営するための体制は整備しており、各種会議や委員会などの情報共有と各部署の連携強化を定着させたい。	3	
	2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	4	人材要件や採用要件など給与支給に関する規定などは、就業規則の通り運用している。所属長により個々の目標設定に基づき職員評価を行い、次年度の課題を設定するなど教職員の質向上に努めている。毎年、パーソナルアンケート(教職員意識調査・働き方改革)を実施している。	人事考課制度により、適正な人事を行っている。パーソナルアンケートにより各職員の意見も反映されるようになっている。またより良い人材育成の理念の徹底や研修、グループ校との交流などを図りたい。	3	
	2-6-1 意思決定システムを整備しているか	4	会議規程を基に各委員会や会議等を実施している。各種会議やミーティングで教職員間の情報共有を行っている。	各種会議ミーティングの他に情報共有ツールとしてTeamsやGaroonなどをもっと有効活用して行く仕組みづくりを構築していきたい。	4	
	2-7-1 情報システム化に取組み、業務の効率化を図っているか	3	基本的にはAS400という業務システムで情報を一元管理している。このシステムと連動した業務システムの導入で、各セクション(広報・教務・就職)におけるデータ管理が行いやすく、入学前から卒業まで管理できる。	1人1台のPC保有で、業務システムでは一連の流れで情報共有ができるが、システムを有効活用できる教職員を増やしていくことが必要と考えている。	3	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員からのご意見
Ⅲ 教育活動	3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4	学生便覧および教育指導要領で、人材養成目的・目標を明確にし「3つのポリシー」の設定をしている。具体的な定量目標としては、退学率、進級および卒業率、就職率、国家試験合格率などがあり、それを定性目標として示す年間教育プログラム(学年ごと入学前教育～卒業後教育)に取り込むことにより、知識・技術の修得や国家試験および就職に対する成果(目標到達)を出す教育システムがある。	定性目標については、今年度の実績を踏まえながら、学校関係者評価委員会や教育課程編成委員会での意見を参考に検討を重ねて教育改善を図っていく。	3	ルーブリック評価を導入して、ルーブリックの開示を含め、活用することが望ましいのではないのでしょうか。評価の仕方を工夫していかないと教員の主観で評価がなされないようにしないといけないということと、非認知能力を評価するうえで、必要かと考えます。
	3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	3	学生便覧および教育指導要領に明記している。科目ごとの到達目標や評価については、教務システム内で成績管理を行い、学科内で周知している。	各学科で今年度の成績等を踏まえて教育到達レベルについては検討していく必要があるが、学科間格差についての見直しも必要である。	3	
	3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4	教育課程の編成については、国家資格系の養成施設の指定規則に基づき組み立てられているため、授業形態や教育内容など段階的に効率よく学習できるようになっている。非国家資格系学科については、幅広い進路選択と資格取得ができるように柔軟性をもって学習できる体制になっている。学習指導に有効的に運用している。	教育目的・教育目標の見直しに伴って学生の背景や学習状況など考慮し、教育課程についても見直しをしていく必要がある。	4	
	3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	3	指定規則から大幅に変えることはできないが、付加価値教育として、業界情報や教育課程編成委員会の意見も参考に、教科外授業で実践するようにしている。特筆することとしては、1年生ではチーム医療を学ぶための合同研修、2年生では看護学科と理学療法士学科で第2種ME検定を任意で受験できるようにしている。	引き続き、教育課程編成委員会や臨地・臨床実習先など業界や外部の意見も反映させながら、業界ニーズにあった人材育成のために教育課程について、独自のカリキュラムを入れるなど構築していく。	3	
	3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3	本校では入学前から卒業後までをキャリア形成(入学前教育)、キャリア設計(在学教育)、キャリア開発(卒業後教育)と考えており、キャリアデザイン講座を1年次より実施している。	入学前教育について、多様な入試形態を踏まえて、入学後の入学前教育としてのブレカレッジの内容を充実させ、入学後につなげている。また、1年次からの意識付けが重要となるため、引き続きキャリアデザイン講座を実施していく。卒業後教育については、卒業勉強会や研修会を同窓会に絡めて考えていきたい。	3	
	3-9-4 授業評価を実施しているか	3	科目終了時に授業ごとに評価内容は、10項目とし、5段階評価で実施している。実施が終わったものから担当教員にフィードバックしている。非常勤講師へフィードバックができていない。	今後は、非常勤講師へのフィードバックの方法について検討していく必要である。	3	

令和5年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2023年6月10日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員会からのご意見
Ⅲ 教育活動	3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4	学則(基準の設定等)に基づき、卒業判定会議、進級判定会議、既修得単位認定会議などを通じて成績評価や単位認定を行っている。	各科目で到達目標をシラバスで定め、試験において評価している。保護者の理解を得るために保護者会を実施しているが、未参加の保護者もいるので、保護者への理解を深めるための施策の検討が必要と考えている。保護者との連携も各学科で行っているが、早期から取り組むことが重要である。	4	・国家試験対策講座など学園としての支援は充実していると思われます。1週間に1回の講座やグループ分けの支援、課題等を合格に向けて進めて行くことができ、教職員からの応援メッセージなど学校全体で支援していることも感じられます。 ・プレカレッジがどのようなものか初めて知りました。内容を聞かせていただき、理解したが、リハビリテーション職は、高校生と接する機会も多く、どの学校が良いか聞かれることもあるので、参考にしたいと思います。
	3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3	毎年卒業・課題研究発表会を催し、学習成果を業界・出身校・地域・保護者へ発信している。	昨年度より学内選考会も実施し、優秀演題を学内全体で選考できるシステムであるが、早期に告知することで関連業界や高校の方に参加してもらえるようにすることにより、多くの方に発信できるような仕組み作りをしていく。	3	
	3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4	看護学科、理学療法士学科、臨床工学技士学科については国家資格取得は各養成課程の最重要目標として位置づけ、医療総合学科については、活躍できるフィールドが多岐にわたることから多様な資格取得を目標にしている。	全員が資格取得できるように対策講座の充実や教授法など工夫するとともに、各学科で共有できるものは連携し、資格取得向上のために引き続き実施していく。	4	
	3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	3	全員を合格させることを前提とし、国家試験対策委員会を立ち上げ、4月より活動を開始している。実質の対策は、入学予定者からスタートし、プレカレッジと通信教育(自宅学習)で対応し基礎固めから行っている。その他の検定試験等は、当該各学年部が担当、目標設定と対策の計画を立て学生指導にあたっている。	前年度の結果を踏まえ目標と対策の見直しをしているが、学園グループの国家試験対策センターと学内の国家試験対策委員会が連携し、教育内容を確認しながら、教職員全員で取り組むことが求められる。国家資格も実習現場での内容が求められるようになり、実習指導者との連携も重要になってくる。低学力者への対応や、国家試験不合格者の卒後のフォローなど個々の対応ができる学習内容を検討していく。	3	
	3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4	全ての学科において、各要件を満たした専任教員を配属している。また担任マニュアル等を有効活用し、教員の資質向上に努めており、講師研修等も実施し、情報の共有にも努めている。教員不足が生じている学科に対して採用計画を立てている。	要件を満たしている教員を配置しているが、より良い人材育成のためまたより良い学生指導のために、質の向上を目指し、引き続き教育力向上に取り組んでいきたい。	3	
	3-12-2 教員の資質向上への取組を行っているか	4	専任教員は本学園全体の教員研修や学会等があり、本校独自の教員研修・事例研究会等も開催し、資質の向上に努めている。講師には講師会議や講師研修会を通じ、本校の教育に理解を得られるように努めている。	学園グループの滋慶教育科学研究所がカウンセリングやFD研修など教職員のレベルに合わせた研修があり、順次参加できるようにしているため、その研修を基礎として有効活用していく。それと合わせて、職能団体など外部の研修など参加できる環境を引き続き継続していく。	3	
	3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	3	学校長を教育の統括責任者として、看護系およびリハビリ・医療系と大別される。現場の統括は副学校長・教務部長が行い、各学科は学科長を中心とした組織の運営体制を敷いている。学科間の連携は、学科長会議・全体会議を通じて組織連携を図る。また講師との連携については、講師会議を開催し協力体制を整えている。	組織図があり、それぞれの部署、役職の業務分掌で業務の役割が明確にしているが、学科連携や行事ごとなど委員会活動として役割も決めており、各人の業務量を見ながら調整していくことも必要である。	3	
Ⅳ 学修成果	4-13-1 就職率の向上が図られているか	4	毎年、就職率100%を継続している。また最終学年だけでなく、在学中からキャリアデザイン講座や就職フェアなど就職意識の向上に努めている。キャリアセンターは1人体制となり3年部教員との連携により就職指導を行った。原則として就職指導は主に担任および副担任で行っている。求人状況は、県内外共に増加傾向であり、特に看護学科は年内全員内定で、県内就職率が80%となった。	一人ひとりに対して希望が叶うように指導しているが、年々就職内定時期が早くなる傾向があり、在学中はキャリアデザイン講座の実施を前倒し、入学前のプレカレッジから職業(将来ビジョン)を意識させ、また国家試験を意識した取り組みを行っている。求人状況は看護学科以外は県内求人の新規開拓が必要であり、県内求人確保を強化していきたい。	4	・近年の学生は社会人基礎力が落ちてきているように感じます。社会人基礎力が高いということは在学中の勉強もできて、学校の評価も上がると思うので、より充実してもらいたいと考えます。
	4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	3	国家試験合格100%に向けた国家試験対策を6月より毎月会議を講じている。 令和4年度国家資格合格率 看護学科 93.5% 理学療法士学科 82.4% 臨床工学技士学科 100% 言語聴覚士学科 56.3% 臨床工学技士専攻科 100%	国家試験100%に向けた取り組みとして、学園グループの国家試験対策センターや各教育部会で国家試験100%になるために工夫をしているが、学内においても低学力者へのフォローの在り方や、入学前教育から1・2年生での基礎学習と復習など学校としてシステムを再構築していきたい。	3	
	4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3	毎年、業界訪問により求人や内定に対するお礼と卒業生の状況把握を行っている。卒業生の現況確認のために、卒業生の就職先に対する動向調査(主に離職について)を実施している。研究業績等をすべて把握しているわけではないが、業界との連携や卒業生とのつながりで、情報確認はしている。学園として、大学・大学院進学などリカレント教育の提供も可能である。	業界訪問や実習先訪問にて、卒業生の確認をしているが、その評価に対し、在学時に職業適性の確認や職業態度教育の強化を図るなどディプロマポリシーに基づく教育プログラムの再構築し、更なる学生の質の向上を図りたい。また卒業生に対して同窓会を実施し、卒業生の状況把握をするとともに、学ぶ機会を増やすことが必要と考える。	3	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員会からのご意見
V 学生 支援	5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4	就職および進学指導については、キャリアセンタースタッフと学科教員と情報共有し学生の活動状況を確認しながら、対面を中心として個別面談で個々への対応を行う。また、1,2年生を対象としたキャリアデザイン講座では、就職活動における留意点(マナー、服装、言語、文書作成、受験までの諸手続き等)やエントリーシートおよび履歴書、病院訪問の仕方、模擬面接などをキャリアセンターと教員の連携により実施している。	採用時期も年々早期化している。入試も全体的には早期化になりつつあり、入学前のプレカレッジからの将来を意識したガイダンス等も入れることも検討していきたい。就職フェアの時期を早めたことの検証するとともに、法人主催の大阪での就職フェアの有効活用も検討していきたい。	3	・いい加減な状態で社会に送り出すことができないという現実も理解できるので、若干の退学率は仕方ないとも考えます。卒業生と話をすると面倒見という点では、学生満足度が高いと感じています。  ・メンタルヘルスについてはどこの職場でも悩む方が多くなっており、対応はいろいろなところで考えられていると思うが、プライバシーを守りつつ組織的なメンタルヘルスを継続して欲しいと思います。  ・学生寮という点では、島根県立大学の事例が参考になるのではないかと思います。出雲は空き家対策の対応をいろいろとしているので、連携するのは良いのではないかと考えます。
	5-17-1 退学率の低減が図られているか	2	学科別に退学の要因や人数把握をしている。退学の理由としては、学力不振、交友関係、学習意欲低下、体調不良などである。最近では、体調不良でもメンタル面が多い傾向である。令和四年度：5.9% (22人/374人)	学生サポートアンケートの有効活用と学生観察し、声掛け・励まして早期に学生の変化に対応し、すぐに面談を実施する退学者減少のために教職員が徹底していく必要があると共にカウンセラーや学生サポートセンターにつなぐシステムの共有や過去の事例の検証をしていく機会を今後作っていただきたい。	3	
	5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4	入学前から学校説明会での保護者対象説明会でもサポート体制の説明を行い、入学後もオリエンテーションや学生便覧に記載して周知している。またメンタル面の対応についても、キャリアサポートアンケートを実施し、メンタル面の状況把握も行っている。教員全員がグループでのカウンセリング研修を受講しており、教職員面談からカウンセラーにつなぎ、専門的支援を受けれる体制を構築している。	カウンセリングについては、本校独自のカウンセラーや滋慶グループの滋慶トータルサポートセンターが運営しているSSC(スチューデントサービスセンター)などオンライン導入による利用しやすい環境づくりとシステムの再構築を図る。	4	
	5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか		留学生はなし	今後、体制作りを行っていく。		
	5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4	大阪滋慶奨学金として、兄弟姉妹が卒業生、在校生の場合は、10万円給付としての制度を設けている。経済的支援については、日本学生支援機構の修学支援制度(給付型、減免型)を活用している。学費については、年間学費の案内はするが、家庭の状況等もあるので、分割制度も実施し、各人の予定に合わせて、納入時期金額を決めている。	奨学生が多いと学費の分納も多くなり、学費担当と奨学金担当の連携が必要となるため、学費相談ができる人材育成をして学生相談できる体制と教務部(学科長)との連携で早期に学費未納をなくす体制を構築していく。	4	
	5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4	定期健康診断については、1年に1度は実施し、記録も保管している。グループとして慶生会クリニック(本部東京)が統括管理している。毎年1次検診は100%である。	健康管理について、2次検診の100%受診になるように取り組む。	4	
	5-19-3 学生寮の設置などの生活環境支援体制を整備しているか	3	1人暮らしの学生支援活動として、学生専用(本学生専用)アパートについて学校説明会やオープンキャンパスを通じて紹介をしている。次年度に向けて学生シェアハウスの準備を進めている。管理については、それぞれの物件に大家がおり、管理してくれている。 ・生活面については、学生サポートとして一人暮らしセミナーなどを実施している。	現在、3つの学生アパートと1つのシェアハウスが本校学生専用となっているが、遠方からの進学希望者が増えてくると物件対策が必要である。また一人暮らしセミナーなど生活面の不安を軽減できることの機会を増やしていきたい。	3	
	5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3	課外活動は、学友会組織で運営され、学園祭や体育祭、各種イベント等の支援を行っている。学友会活動目的は学生便覧に明記しており、万一の怪我の時も学生保険が適用されるようになっている。	課外活動については、コロナ前はクラブ活動も活動していたが、コロナ禍でクラブ活動も縮小したので、学生の自主性も重んじ、可能な限り支援していく。また、学外でも課外活動についても、地域で活躍する在学生として、学業との両立が問題なければ、こちらも可能な限り支援していきたい。	3	
	5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	3	学校行事として毎年4月(3年生)と9月(1,2年生)に保護者会を開催している。また学生状況で問題が生じたときや気になるときはその都度電話連絡や来校していただき、面談(保護者面談・三者面談)を実施し、記録も業務システムに残している。	入学前保護者説明会や入学後の保護者会において、学費支援や学校生活(学校行事など)などの理解を深めるため内容を再検討すると共に、LINEを活用した保護者情報提供体制も検討していく。	3	
	5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	2	卒業生を対象とした同窓会組織を設置している。同窓会組織は会員である卒業生の親睦を深める目的であるが、コロナ禍ということで組織設置計画段階である。キャリアアップや教育支援としてR5年度は基調講演としてスタートさせる。	同窓会活動の企画で、卒業教育(継続教育)に対しての研修会や勉強会を立ち上げる。資格取得者の卒業支援についてはリカレント教育の計画・準備を継続し体制を整備する。法人としては滋慶医療科学大学・大学院を設置しており、進学・研究できる体制はある。	3	
5-21-2 産学連携による卒後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	2	産学連携の教育プログラムについては、各学科において検討段階であるが、各職能団体で実習指導者会議などより良い人材育成教育のための連携は実施している。また大阪滋慶学園として経営管理研修センターのセミナー等は実施している。	各学科で卒業生が中心となって卒業後の学ぶ環境づくりはこれから検討していく段階であり、今年度の同窓会をきっかけにスタートできる仕組みづくりをしていきたい。(より多くの卒業教育環境を提供するためにオンラインも有効活用できることも検討。)	2		
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3	図書室や施設利用など学ぶ環境を整備しており、また入学まえから既修得単位の認定の説明なども行っている。経済的なサポートとして、専門実践教育訓練給付金制度等を全学科対象となるように努めていきたい。	社会人の環境整備として、いつでも学べるための施設確保が必要で、図書や演習室や、ホールなどの自由に使える環境はあるが、+αの学びができるシステム作りを検討していく。また学びを継続できる環境として学費面を整えることも必要と考えるので、学費支援も合わせた対応ができるように検討していく。	3		

令和5年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2023年6月10日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員会からのご意見
VI 教育環境	6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	3	5年後までの修繕計画をし、長期的に安定した施設管理をしている。教育用具については、必要備品はそろえているが、より良い学びのために学習環境を充実させていきたい。	雨漏りに関しての施設の修繕に時間と費用がとられたが、次年度は空調や防火設備等にも予算を配分できるように、修繕や改修については全体をみながら計画していく。また、実習に関わる備品の入替(買換)を随時行う。	3	特になし
	6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	3	全科で学外実習は科目として取り組んでおり、各実習ごとに要綱を作成し、目的を明確にしている。職業実践専門課程の質の向上として現場実習については、お互いの意見交換や情報共有により、即戦力としての人材養成に努める。海外研修は、新型コロナウイルス感染症の影響により海外渡航が困難となり中止となったため、海外提携校とのオンラインでつなぐ国内研修プログラムを実施した。	実習については、概ね実習施設の協力のもと実施することができたが、コロナ禍でまだまだ制限もあるなかで、より良い実習の仕組みづくりを施設側と連携して構築していく必要がある。海外研修についても、オンラインで現地学生との交流はあるが、異文化交流で国際的視野が得られる内容で充実させたい。	3	
	6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	3	コロナ禍でここ数年は消防避難訓練が実施できなかったが、11月に地震を想定した安全確保訓練と、同時に火災が発生したことを想定した避難訓練を実施。防火管理者が中心に、避難方法や消火活動等であり、今後、学生自身が医療従事者となる心構え、身構え、気構えを学ぶ機会とした。	地震や火事等いろいろな有事を想定した訓練を年複数回行える体制と臨機応変に対応できる組織づくりが必要であり、次年度は訓練の複数回実施を検討していきたい。	3	
	6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	3	危機管理マニュアルを作成し、緊急時の体制の構築はできている。また、日常についても安全衛生推進者を任命し、日々の安全管理も定期的に行っている。学生の安全確認はグループで安否確認システムを学生全員に登録している。	危機管理マニュアルはあるが、有事の際の人員配置等臨機応変さが求められるので、訓練の複数実施や少人数出勤時での訓練も検討する必要があるとともに、緊急時の備蓄等も今後の課題である。	3	
VII 学生の募集と受入れ	7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取組んでいるか	3	媒体業者を通じて、高等学校の進路説明会や各エリアでの会場ガイダンスに参加している。広報担当者や学科教員が定期的に高校訪問を行い、情報提供を行う。また職能団体と連携して、高等学校のみならず、職業理解の観点から中学生対象のイベントや地域貢献の一環としてイベント等も行う。	高校訪問に関してはコロナ禍の中ではあったが、346件と状況を確認しながら実施。在校生・卒業生情報の提供を行なった。また高等学校のニーズに合うように連携授業も実施したが、コロナ禍以前のような連携数を今後は確保していきたい。	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学や短期大学との比較、他の専門学校との比較に基づき、差別化されている点を明確に打ち出した方がなおよいと思います。</li> <li>・アドミッションポリシーと入試形態との整合性を図られても良いのではないかと思います。</li> <li>・国際交流があり、島根県唯一の臨床工学技士養成校であり、地域密着型であるが、少子化も進み人材確保が難しい中、学校がどのようなことをやっているのかももっとオープンにしたら良いと思います。多くの団体とのかかわりなどに密着し、人材育成をPRし、人材確保ができればいいのではないかと思います。地域に根付き、高校から在学、卒業後の一連の流れや特色をPRし、学生と教員の密着度が高いのは学校の売りの一つであると思うので、素晴らしい人材が島根県に残ってくれるのは宝であるので、いろいろな場所にもっと働きかけていくことが良いのではないかと思います。</li> </ul>
	7-25-2 学生募集活動を適切、かつ、効果的に行っているか	3	島根県専修・各種学校連盟のルールに従い、総合型選抜(A0入試)のエントリーは7月、出願は8月からなどルールを尊重し、また高等学校の意見も聞きながら入試日程を設定している。学校説明会も複数のタイプの説明会を設け、それぞれのニーズに合うように開催している。また、平日等も含め個別相談も実施し、入学志願者の希望に沿って相談ができるような体制を整えている。	学校説明会も毎月実施し、入学希望者がいつでも来校できるように設定し、入学試験も7種類設定し、受験者ニーズに合うように取り組んだが、大学受験者層の取り込みが不十分なところもあり、募集目標が未達であった。今後、説明会や入試の日程を再度検討していくと共に学科情報や業界情報を積極的に発信していく。	3	
	7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	3	各法令等のルール等を尊重し、「入学試験に関する規定」に則り、明確にしている。入学選考基準については、規定に基づき、入学試験の種別、受験資格などを定め、募集要項に反映し、試験後には合否基準を基に入試判定会議を開催し、合否決定を行っている。	現状、適切に運用しているが、今後は入試の早期化が進んでくるため、A0入試(総合型選抜)の入試内容等の精査、運用を図る。	3	
	7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	3	学科毎に出願者数と合格者数と辞退者数を年度ごとにデータ管理している。入学生個々の学校偏差値、評定、試験結果など学習状況を一覧化し、学力における弱点を補うために入学前教育のプレカレッジを実施している。また、並行して基礎科目の通信教育も行う。学力把握のために確認テストを行い、テスト結果から学習サポートも実施し、基礎学力向上を図っている。	学校偏差値と評定と欠席日数を受験科目の点数を一覧化している。面接内容等も記録しており、学習習慣等もある程度把握している。また1年次の確認テストの結果と連動させることで、認定試験の結果を踏まえた対策ができると思う。入試⇒入学前教育(プレカレッジ)⇒入学後導入教育(学習サポート)の連動と仕組みの再構築	3	
	7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4	学費については、事業計画で、収支計画を立て、理事会を経て決定している。諸費用についても各学科で毎年精査し、余剰が大きくなるようにしている。学費および諸経費については、ホームページや募集要項に記載し、学校説明会や保護者説明会で説明している。	諸経費については、毎年変動していくものであり、近年物価高騰による価格上昇で、慎重に精査しているが、ICT化により、タブレット等の端末と通信環境整備なども合わせて随時検討していく。	3	
	7-27-2 入学辞退者に対し授業料等について適正な取扱いを行っているか	4	学額辞退者には、3月31日までに辞退の連絡をいただければ、返金手続きを行うこととしている。募集要項にわかりやすく記載している。	募集要項にわかりやすく記載はしているが、併願者も多く、期限ギリギリまで連絡が取れないまたは検討していく方に対してのこまめなフォローを徹底していく。	4	

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員会からのご意見
Ⅷ 財務	8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	4	学校単体では、入学生数確保が苦戦しているが、学園全体としては充足率は90%を超えており、健全である。 予算では収入に対して教育活動に使う支出を重点的に編成し、借入金返済も考慮に入れて、バランスの取れた収支になるように計画し、実践している。	経費の見直しや収入の増加によって現金預金を増やし資金的余裕を持たせるため、内部では定期的な財務数字の把握、会議等の打合せを綿密に行っていく。 また、外部では監査法人等の会計監査人から定期的な監査を通じて専門的な立場によりアドバイスをもらい、問題解決につなげていく。	4	特になし
	8-28-2 学校及び法人運営にかかる主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	4	直近3年間の収支状況による財務分析と財産目録・貸借対照表による財務分析を行い、比較している。	特になし	4	
	8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4	・事業計画は運営方針に基いて計画され、収支計画も運営方針に基いて計画される。収支計画は学科ごとの入学目標、在籍者目標数で計画。 ・収支計画は5カ年を見据えた中長期計画と、1年間の予算を計画する短期計画がある。この計画の基で、年間予算を編成する。	予算編成を中長期と短期で立てているが、社会環境の変化などで中長期の見通しをその都度検討していく必要がある。	4	
	8-29-2 予算及び計画に基づき適正に執行管理を行っているか	3	事業計画のもと、適切に執行している。	事業計画のもと適切に執行しているが、学生募集と在校生数が予算となる。学生募集の達成と退学者の減少が事業計画で重要であるので、その点を改善できるようにしていく。	3	
	8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき適切に監査を実施しているか	4	監事による監査は、専門家である公認会計士との意見交換を通して学校・法人に対してヒアリング・指導を受けている。また、会計監査人による監査は期中監査及び期末監査（年度決算に向けての会計帳簿・証憑書類等の内容確認等）を受けている。	特になし	4	
	8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	4	本学園の閲覧に関する規則に基づき、情報公開・閲覧に関する体制を整えており、常務理事の統括のもと事務局長・事務局次長が現場責任者を務めている。 また法人のホームページにて、財務諸表（財産目録、貸借対照表、収支決算書）、事業報告書、監査報告書等を公開している。	特になし	4	

令和5年度 学校法人大阪滋慶学園 出雲医療看護専門学校 学校関係者評価委員会 資料

【2023年6月10日実施】

委員の皆様へ 右端の関係者評価内に上記評価基準を参考に評価をお願いいたします。

大項目	点検・評価項目	評価 4…できている 3…ほぼできている 2…改善が必要 1…できていない	現状と具体的な取り組み	今後の課題と対策	関係者評価	学校関係者評価委員会からのご意見
Ⅸ 法令等の遵守	9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4	学園として、コンプライアンスを重視しており、教職員は設置基準・法令の遵守に努めている。各学科養成所指定規則に則り、運営している。 ・行政へ毎年定期報告を行い、学則変更、指定規則変更がある場合は、適宜届け出提出をしている。	法令の遵守は徹底しているが、法令や指定規則の内容を職員全員が理解できるような体制を構築していくことで、届出等を適正に行える人材を確保しつつ、個々の業務でもコンプライアンスが徹底されていくことができると考える。	4	特になし
	9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	4	学生便覧には個人情報の取り扱いについて明記し、オリエンテーション時には学生に説明している。 また学内には個人情報保護委員会を設置し、その取り扱いについても詳細に取り決めている。 <個人情報保護委員会> ・委員長は、個人情報管理責任者（学校長） ・委員は、個人情報取扱責任者、個人情報実務担当者	教職員には毎年、ITリテラシーの受講と日本プライバシー認証機構（JPAC）の研修を受けて、教職員全員が個人情報保護について学習している。法律は今後も改定されていくものであり、法律変更等の情報共有できる学園体制はあるので、学内各人がすみやかに理解できるように努めていく。	4	
	9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	4	平成27年度より準備し平成28年度より実施している。また令和4年度については、第三者評価も受審する。	学校全体と各部署での評価を行い、意見を取りまとめて学校評価をしていく体制を引き続き継続していく。	4	
	9-34-2 自己評価結果を公表しているか	4	自己点検・自己評価の結果についてはホームページ上で公開している。	今後も分かりやすくHP上で公開していく。	3	
	9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	4	学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会規定を基に委員会を開催し、現状の取り組みなどを評価してもらい、委員会メンバーから貴重な意見をいただき、改善点や課題が見え、今後の取り組みに対して組織目的や運営方針を見直している。委員等は付則資料に添付しているが、各学科で職能団体の責任者や業界を代表する方で構成している。	毎年、単年として貴重な意見をいただいているが、中長期的な視点で評価していただけるような委員会体制も検討していきたい。	3	
	9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	4	評価結果をホームページ上で公開している。	今後もわかりやすく公表できるように引き続き継続していく。	3	
	9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3	学校関係者評価委員会、ならびに教育課程編成委員会を設置し、学校運営に関するさまざまな環境整備を行う。学校の基本情報や各学科の教育課程、国家試験の合格率、就職内定率、財務情報などホームページを通じて情報公開をしている。	今後も教育内容の情報公開は求められる。国家試験結果、就職内定、就職実績の他にも特色ある教育内容など積極的に情報公開を務めるが、公開するタイミングをより早くできるようにしていきたい。	3	
Ⅹ 社会貢献・地域貢献	10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3	コロナ前のように地域のボランティア活動の積極的参加までとはならないが、徐々にではあるが、ボランティアに参加し、地域交流をおこなうことができた。また、学校での地域の方を対象とした健康講座なども実施や各職能団体に勉強会や研修の会場としても貸出を行う。	医療系専門学校としてできる社会貢献、地域貢献とは何かを考え、より身近な地域貢献（健康セミナーなど）を積み重ねること、身近にできる社会貢献（ボトルキャップ回収など）を引き続き継続していく。	3	・国際交流は視野を広げつためにも大切であると考えます。海外研修はその1つであり、プログラム内容の充実を図るとよいのではないのでしょうか。 ・日本語の力の向上（コミュニケーション力が仕事上重要と考えるので）をどう向上させるかを考えると良いのではないのでしょうか。 ・理学療法士協会では、学生に参加してもらえる取り組みを行っています。（出雲市民を対象に体力測定を学生に実施してもらう）学生時代から、地域の方とのつながり、専門職とのつながりをもってらうことがいいのではないのでしょうか。
	10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3	国際交流は海外研修プログラムもあることから積極的に取り組んでいる。専攻科以外の全学科は2年生で1週間程度の研修を受ける。世界共通のコミュニケーション言語の英語を学ぶだけでなく、異文化を理解し、広い価値観や視野を得ることを目的としている。	海外研修は本学の特色の1つであるが、海外研修以外にも、出雲は外国人が多いこともあり、外国人のためのボランティアなどで多国籍交流を図ることも検討し、いずれば外国人留学生受け入れも検討していく必要も考える。	3	
	10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	4	ボランティア活動も復活してきており、積極的にボランティア活動への参加を促している。ボランティア参加の目的の理解やその内容を記録できるようにボランティア手帳を作成し、積極的に参加できるようにしている。	引き続き出雲市、地域コミュニティーセンター等と連携をとり参加支援を行い、より多くの、そしてより多くの年代の方と接することで、多様な価値観を理解してもらえるように支援していきたい。	4	